

殺された象の象牙を置くビッグ・ライフ基金のレンジャー隊員。アフリカ全土で毎年3万5000頭もの象の命が奪われている(2011年)

**Africa Stripped of Its Soul**

## 野生の王国を脅かす密猟者の影

PHOTOGRAPHS BY NICK BRANDT

### Picture Power

雲間に差す光を浴びながら、大草原に点々と散らばるキリンの一群。たてがみをなびかせて静かに風を待つライオン。写真家ニック・ブランドトが切り取る気高く静謐な野生動物のたたずまいを見ていると、太古から繰り返されてきた命の営みが突然断ち切られることなどあり得ないように思える。だがそれは錯覚のようだ。08年以降、アフリカ各地で野生動物の密猟がエスカレートしている。最大の標的は象で、アフリカ全土の生息数の10%に当たる3万5000頭が毎年殺されているとの推定もある。このままでは近い将来、アフリカ大陸から象は姿を消す。

原因は象牙の需要が中国で急増し、価格が7年間で10倍以上に跳ね上がったこと。ブランドトが07年に撮影した水場の象も2年前、象牙目当ての密猟者に殺された。危機感に駆られたブランドトは昨年9月、野生動物の保護に取り組むビッグ・ライフ基金を設立。ケニアのアンボセリ国立公園を拠点に、多くのレンジャー部隊が密猟者の取り締まりに奔走している。幸い、活動地域内での密猟は激減しており、悪質な業者も多数逮捕されたが、密猟者とのいたちごっこは激しさを増す一方だ。野生動物の王国を守る戦いは始まったばかりだ。

N



密猟者に撃たれたけがを押してアンボセリ国立公園に帰ったが、電動のこぎりで象牙を切り落とされた若い象(上)はこの1カ月半後に撃ち殺された(2010年)。象牙の需要は中国を中心に急増している(下、2011年)

群れを率いる先頭のメス象はアンボセリでは珍しい50歳過ぎの高齢。09年に密猟の犠牲となった(2008年)



ブランドが07年にアンボセリ国立公園内で撮影した当時51歳の象。09年10月に象牙目当ての密猟者に殺された。本誌09年10月28日号で紹介したこの写真はビッグ・ライフ基金のポスターにもなっている

撮影:ニック・ブランド

ロンドン生まれ。美術大学で映画と絵画を学ぶ。2000年から東アフリカでの写真撮影を始め、独自のスタイルで高い評価を得ている。昨年秋にビッグ・ライフ基金(Big Life Foundation)を設立し、野生動物の保護活動を展開

PHOTOGRAPHS BY NICK BRANDT

**Picture Power**

